

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要		平成18年度		根拠法令・例規等	森林法
事業開始年度					
総合計画	大項目	基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問 担当課(室) 農林水産課 合 職・氏名 耕地治山係長 吉田 正人 先 電 話 0869-64-1830 このシート作成に要した時間 2.0 時間
	中項目	基本施策	01	豊かな食を支えるまちづくり	
	小項目	施策	02	林業	
事務事業名		01		治山林道整備事業	

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	林道利用者、森林所有者	
目的(何のために)	林道を整備することにより森林の防火を図り、地域住民の生活道として利便性及び安全性を高め、また維持管理を行い林道の保全及び災害の防止に努めることを目的とする。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	林道利用者及び地域住民が安全に通行出来るように、林道の保全及び災害の防止に努めることを成果とする。	

事業の実績		Do	
目的を達成するための実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	小規模林道整備事業	県単独事業に対し国庫補助対象とならない小規模な林道整備工事に要する経費の一部事業(補助率その他 開設4.5%、改良30%、舗装1/3、補修100%)を行う。	
	閑谷の森管理運営事業	森林公園の維持・補修を行う。	
	単独事業	県・国庫補助対象とならない小規模な林道工事に要する時間を行う。また、山地を対象とし、森林の維持及び災害の未然防止を目的として施設の整備、修繕を行う	
	林道維持管理事業	林道の維持管理や交通安全施設の整備拡充など林道交通安全の確保に関する事業を行う。	
	県治山林道協会負担金	各種団体への負担金	
	備前地区治山林道協会負担金	各種団体への負担金	
	治山施設維持管理事業	治山施設の維持管理	

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
決算額	直接事業費	千円	23,018	11,466	8,325
	必要人員費	人	0.61人	0.77人	0.40人
	事業費計		27,765	17,607	11,791
	国庫支出金	千円	15,355	1,080	3,965
	受益者負担金				
	繰入金				
	市債				
	その他()				
	一般財源		12,410	16,527	7,826
	受益者負担比率	%	-	-	-
結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	
結果指標量	箇所	1	2	1	
対前年比	%	200.0%	50.0%		
活動コスト	円	17,466,200	3,679,200	2,196,600	
単位当たりコスト		17,466,200	1,839,600	2,196,600	

事業の成果		平成21年度					平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
林道(開設・改良)整備率	成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値			
	目標値(A)		529	128	90	130			
	実績値(B)		529	136	120	到達目標値			
		達成率(B/A)	100.00%	106.25%	133.33%	170			
成果指標設定の考え方・式や説明									
整備済延長÷年度計画整備延長(m)									

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い
	市民ニーズ	必要	市民・団体等から要望・要請が強い	B
効率性の評価	コスト	必要	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある	効率性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い
	手段	必要	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	C
有効性の評価	目的達成度	必要	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている	有効性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い
	市民参画度	必要	現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	C

進行年度(H24年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	林業維持管理事業については現状を維持する。

総合評価		総合評価
台帳整理及び林道利用者の調査を行い、現状をきちんと把握した上で優先順位を付けていき、維持管理していく中で林道利用者・地域住民等の協力も得ながら、林道の保全及び災害の防止に努めていきたい。		C

平成25年度の方向性・取組目標		Action					
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了						
取組目標	台帳整理及び林道利用者の調査を行い、現状をきちんと把握した上で優先順位を付けていき、維持管理していく中で林道利用者・地域住民等の協力も得ながら、林道の保全及び災害の防止に努めていきたい。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価